

これは一体何だろう？



おや、何かが転がっている。だるまさんかな。
いや、ちがうな。丸いものらしいなあ。これは、
いま埋蔵文化財センターで行われている、遺物整理作業の時に出てきたものです。作業はまず土器や石器などを水で洗うところからはじめ（水洗）つぎに遺跡のどこから出たものかをしめす記号を墨やポスターカラーで書き入れます（注記）。そして、壊れたもので形になりそうなものについてはつなぎ合わせます（復元）。さらに、図にしたり、写真をとる作業があります。この一連の作業のなかで見つかったものです。これが見つかった遺跡は華蔵台遺跡けしやうだいといひます。現在の都筑区荏田南四丁目付近にありました。昭和48年から昭和50年

にかけてと、昭和53年の秋から昭和54年の春まで発掘が行われ、縄文時代後期から晩期の集落跡があったことがわかりました。竪穴住居址が後期のもの42軒、晩期のもの6軒の合計48軒が見つかり、掘立柱建物址8棟、お墓の穴が90基、貯蔵穴14基、そして、土器捨て場3か所などがあります。貯蔵穴からは炭化したクヌギの実が発見されました。遺物には土偶・耳飾り・石でつくった剣などが出ています。ほかに、古墳時代から奈良時代にかけての竪穴住居址2軒、掘立柱建物址3棟、溝2条が発見されています。

さてこの長細い円形をした煎餅のような粘土板ですが、大きさは8cm×6.5cmで、表面に粘土の

紐で眉毛と鼻をかたどり、篋の先のようなものでふたつの眼と口、そして鼻の穴を沈線ちんせんで表しています。これは筒形土偶の顔の部分です。しかも、遠い昔に横浜の地に住んでいた縄文人が作った顔です。岡本太郎さんが大阪万博の時に記念の塔をつくりましたが、あれもモデルが縄文土偶です。体を筒のようにつくり、円板に顔を表したものを貼り付けてつくられています。港北ニュータウン建設地域内の遺跡でも都筑区はらでくちの原出口遺跡で見つかっています。その他、磯子区いなりやま稲荷山貝塚でも見つかっています。土偶の多くは女性を表し、手足や頭部を欠いて発見されることが多いことから、呪術的な意味があるものとされています。ここではちょっと見方をかえて、縄文時代の人びとの顔、言ってみれば大昔の「ハマっ子」の顔はこんなふうだったのかな、ということでながめてみましょう

う。横浜や、横須賀、茅ヶ崎などの土偶を並べると顔つきが少しずつ違います。お国柄のようなものがあります。また、時間的に古いものから新しいものまでならべてみるとやはり変化しています。一つひとつの表情をみると、泣いたり、笑ったり、怒ったり、考えふけに耽いぶきっているように見えるものがあります。縄文人の生活の息吹を感じます。



筒形土偶

縄文時代の「ハマっ子」は こんな顔？



都筑区
三ノ丸遺跡



都筑区
小丸遺跡



都筑区
原出口遺跡



都筑区
華蔵台遺跡



都筑区
前高山遺跡

栄区

笠間中央公園遺跡



道路状遺構



古墳時代の住居址の発掘

道路状遺構の路面の土を掘り下げたところ、岩盤を溝状に幾重にも掘り込んだ跡が見つかりました。ここに水はけの良い土を詰込み、その上で路面を平らに整地して道路にしていることが分かります。道路の両側には側溝も設けられていました。



発掘調査風景



弥生時代の住居址（赤い部分は炉跡）

かさまちゅうおうこうえん
笠間中央公園遺跡は横浜市の西南部、JR 大船駅と本郷台駅の間にある丘の上に位置しています。今回の調査は公園を造る工事に先立って行われたもので、遺跡名は公園の名前から取ったものです。約 4000 m²の発掘調査を行い、弥生時代から中世にかけての遺構と遺物が発見されました。

遺跡の中心となるのは弥生時代後期および古墳時代前期・後期のムラの跡で、多くの竪穴住居跡が発見され、また、奈良～平安時代の住居跡も数軒発見されています。住居跡以外にも弥生時代のお墓である方形周溝墓や、倉庫であったと考えられる掘立柱建物跡など様々な遺構が見つかります。

笠間町の周辺には城郭址である長尾城址をはじめ中世の遺跡が数か所ありますが、今回の調査では道幅が約 10mにも達する大規模な道路状遺構が発見されました。これは、水はけを良くする工夫が凝らされた、市内でも屈指の道路遺構です。

この辺りには鎌倉街道のバイパスと考えられる吉田道という道路があったとされていますが、今回発見された道路の構造や規模から見て、この遺構が吉田道であった可能性が十分考えられます。

笠間町付近ではこれまで発掘調査の事例が少なかったため、今回の調査で得られた資料は栄区の原始・古代の歴史をうかがい知る上で重要なものであると言えます。

行ってみよう!

横浜市三殿台考古館

磯子区の北端に位置する三殿台^{さんとのだい}の丘は、標高 50 m ほどの見晴らしの良い丘で、明治時代から縄文時代の貝塚として知られていました。

昭和 30 年代になると横浜市域では人口が急激に増加し、それにあわせて宅地などの開発工事が盛んに行われるようになりましたが、この三殿台の丘にもその波が押し寄せ、隣接する岡村小学校の校地拡張予定地として利用される計画が立てられました。

そこで開発に先立ち、昭和 36 (1961) 年の 7 月から約 5 か月を費やして遺跡の記録を取ることを目的とする発掘調査が行われ、考古学の専門家の他、学生や一般市民など延べ 3,500 人もの人々が参加しました。その結果、縄文時代から古墳時代にかけての 250 軒を越える竪穴住居跡などの遺構が発見され、土器・石器・金属器など膨大な量の遺物が出土したのです。

この調査により、三殿台遺跡は、縄文、弥生、古墳の 3 時代にわたる人々の生活を今日に伝える貴重な遺跡であることが明らかになりました。学術的にも高い評価を受け、昭和 38 年には開発せずに保存することが決まり、次いで昭和 41 年には国指定史跡に指定されました。翌昭和 42 年、遺跡の保存・公開などを目的とした「横浜市三殿台考古館」がオープンし、今日に至っています。

【利用案内】

開館時間 9:30 - 16:00 (火曜日は 12:00 まで)
休館日 水曜日、月末 (水曜日の場合は翌日)、
祝日 (ただし、5 月 5 日・12 月 3 日は開館し、翌
日が休館)、12 月 28 日 ~ 1 月 4 日

入館料 無料

〒235-0021 横浜市磯子区岡村 4-11-22

TEL 045-761-4571 / FAX 045-754-2488

横浜市営地下鉄「蒔田駅」下車徒歩 15 分

横浜市立岡村小学校となり



復元された竪穴住居。



発掘調査された状態そのまま
を見学できます。



展示室では出土した遺物や写
真パネルを見ることができま

埋蔵文化財センターのご案内

出土品や整理作業の様子が見学できます (予約が必要です)。埋蔵文化財や歴史に関する質問も歓迎します。

開所: 午前 9 時 ~ 午後 5 時。土・日・祝日休み

交通: 東横線「綱島駅」より東急バス「勝田折返所」行終点。

田園都市線「江田駅」より東急バス「綱島駅」行「勝田」
下車。

埋文よこはま 2

発行日 平成 12 年 12 月 15 日

編集・発行 財団法人横浜市ふるさと歴史財団
埋蔵文化財センター

〒224-0034 横浜市都筑区勝田町 760

TEL 045-593-2406 / FAX 045-593-2403